

思いもよらぬ南京虫騒動

澤 功（澤の屋旅館主人） ※この記事は日観連機関誌の2009年新年号に掲載されました。

盆休みが終わって、まだ暑い日が続く八月十七日にマレーシアから年配のお母さんと娘さんが六泊の予定でやって来ました。

二十五号室の部屋に泊まって三日目の朝のことです。娘さんがフロントに血のついた虫の死がいを見せ、ティッシュにをくるんで持って来ました。「昨日の夜、この虫に刺されました」とそれを見せます。「あっ、南京虫だ」と七年前の出来事を思い出しました。やはりお盆休みの頃で、宿泊した日本人のお母さんと娘さんが「寝ようと思ったら赤い虫が何匹も出て来て、娘が刺され恐ろしくて一睡もできなかった」と言われ、何度もお詫びして宿泊料はいただきず帰っていただいたことがあったのです。

消毒に来てくれた会社の人にその虫の死がいを見せると「これは南京虫です。東京では何年も見たことがありませんから外国のお客さんの荷物についてきて住みついたのですね」と言われました。

ところで、八月十九日は一部屋空いていたので「今日、部屋の消毒をしますから二十二号室に移動してくれますか」とお願いすると快く承諾してくださいました。

息子がさっそく薬局にいった殺虫剤を買ってきて午前中に一回、それに夜、もう一回、部屋を消毒しました。翌朝、南京虫が死んでいましたので、これで大丈夫と思って、また、二十五号室に移動してもらいました。ところが次の朝、フロントに来て、また虫が出たと言います。

そこで消毒会社の人にきてもらって事情を話すと「今の南京虫は強くなって日本の市販の薬では死なないんですよ。私どもでは十倍も強い薬を使って一日目は畳を上げ床板部分や柱、木部隙間には入りこんだ南京虫を追い出し二日目に出てきた虫を駆除するので二日間かかります。」と言われました。

その日は満員だったので「消毒会社に頼んだら駆除するのに二日かかると言います。他の宿を探して宿泊料は私どもで負担させてもらいますから」とお願いすると「仕方がないよ」と言って承諾してくださいました。二日間での南京虫駆除の費用は二万八千三百五十円でした。

一件落ち着きとほっとしていましたが八月二十七日から七泊の予定でやって来た、ドイツからの若夫婦が二十三号室に泊まって次の朝、虫に刺されたと言います。前回と違った部屋で、また虫騒動です。

「外国から来たお客様の荷物についてきた虫が部屋に住みついたのだと思います。消毒会社に駆除してもらうのに二日間かかりますので、その間、他の宿を紹介させてもらっていいですか」とお願いして移動してもらいました。

消毒が終わって、また若夫婦が戻って来てくれました。ところが若奥さんがフロントに来てインターネットで調べたと言って南京虫の絵を見せて「これがいたのじゃないかね、でももし私の荷物の中に入り込んでいたらどうしよう」と言われてしまいました。困ったなあと思いましたが、その夜から虫に刺されることもなくチェックアウトして行かれほっとしました。

消毒会社の人に聞くと今年の夏は南京虫の駆除施工が多くホテル、旅館で十六軒もあったそうです。私どもでは年二回、衛生害虫駆除を施工してもらっているのですが、その時、南京虫の予防も一緒にできませんかと聞きますと南京虫がいた時しかできませんと言われました。

訪日外客が1千万人になるということは招かざる客もやってくる事になるのだなと思いました。